

1 バクモンドウ

2 生薬の性状の項に次を加える。

3 確認試験 本品の中切以下としたもの5 gに水15 mL及び酢酸
4 エチル25 mLを加えて10分間振り混ぜた後、遠心分離し、酢
5 酸エチル層を分取する。この液10 mLをとり、低圧(真空)で
6 溶媒を留去した後、残留物をアセトン0.5 mLに溶かし、試
7 料溶液とする。別に薄層クロマトグラフィー用メチルオフィ
8 オボゴナノンA 1 mgをメタノール1 mLに溶かし、標準溶液
9 とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフィー
10 〈2.03〉により試験を行う。試料溶液20 μ L及び標準溶液10
11 μ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用いて調製し
12 た薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチル/酢酸
13 (100)混液(30 : 10 : 1)を展開溶媒として約7 cm展開した後、
14 薄層板を風乾する。これに塩化鉄(III)・メタノール試液を均
15 等に噴霧するとき、試料溶液から得た数個のスポットのうち
16 1個のスポットは、標準溶液から得たスポットと色調及び R_f
17 値が等しい。

18 -----

19 9. 41 試薬・試液の項に次を追加する。

20 メチルオフィオボゴナノンA, 薄層クロマトグラフィー用
21 $C_{19}H_{18}O_6$ 白色～薄い黄色の結晶又は粉末である。エタノ
22 ール(99.5)にやや溶けにくく、メタノールに溶けにくく、水
23 にほとんど溶けない。

24 確認試験 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法〈2.25〉
25 の臭化カリウム錠剤法により測定するとき、波数 3430 cm^{-1} 、
26 1619 cm^{-1} 及び1251 cm^{-1} 付近に吸収を認める。

27 純度試験 類縁物質 本品2 mgをメタノール2 mLに溶かし、
28 試料溶液とする。この液1 mLを正確に量り、メタノールを
29 加えて正確に20 mLとし、標準溶液とする。これらの液につ
30 き、薄層クロマトグラフィー〈2.03〉により試験を行う。試
31 料溶液10 μ Lを薄層クロマトグラフィー用シリカゲルを用い
32 て調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/酢酸エチ
33 ル/酢酸(100)混液(30 : 10 : 1)を展開溶媒として約7 cm展開
34 した後、薄層板を風乾する。これに塩化鉄(III)・メタノール
35 試液を均等に噴霧するとき、 R_f 値0.3付近の主スポット及び
36 原点のスポット以外のスポットを認めない。また、試料溶液
37 及び標準溶液10 μ Lずつを薄層クロマトグラフィー用オクタ
38 デシルシリル化シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポッ
39 トする。次にメタノール/水混液(9 : 1)を展開溶媒として約
40 7 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに塩化鉄(III)・メ
41 タノール試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得た R_f 値
42 0.4付近の主スポット以外のスポットは、標準溶液から得た
43 スポットより濃くない。

44